

で杖を作ってみてください」それと、どういう話しの経緯でそうなったか忘れてしまったが、「ワラビの茎でできないか」とのことでした。

その暮れ、アサガオとオオイタドリはお届けしましたが、ワラビは長さは確保できるものの、強度がとて杖に耐えるものではなく、何本か寄せて束ねても無理ではないかと思われました。故事になにかあるのか、うかつにもその時の話が記憶になく残念でなりません。

杖は自分で使われるのではなく、大量に作って、長岡駅売店などで販売したらどうか、町の特産にならないか、などと語っていられました。

葬儀の折り、志に戴いたギフトカタログのなかに、山や、写真用のストックがあり、因縁話のようですが、つながり

を感じそれを希望して頂戴しました。使うたびに、池上先生の温かいお気持ちを、偲ぶことができればと思っています。

熊流れ事件について(102頁92の写真参照)

池上先生がザイルを伝って徒渉される雄姿を撮影しようとカメラを構えていたら、突然滑ってバランスをくずされた。吃驚してシャッターを押したので写ってしまった。みんながヒヤツとした瞬間でもあり、不謹慎と思い、門外不出にしてしまいましたが、じねんじょ12の調査記録にも掲載済みであるし、現場の緊迫した雰囲気わかる唯一の証拠写真と思ひ提供します(奈良場)。(1985.8.7. 苗場山赤湯温泉清津川の出来事)

池上義信先生ありがとうございました

西山邦夫

池上先生には、あらゆる面で多くの事を御指導頂きました。とりわけ文章の書き方についてのお教えには、心より感謝申し上げねばなりません。自信を持って書いた文章でも、原稿用紙が校正で真っ赤になつて返ってきます。その原稿を読み返しますと、正確で理解しやすい巧みな文章に生まれ変わっています。今度こそは大丈夫だろうと思いつつまた、校正をお願いしても、結果は同じで、いつまでたっても上達はしませんでした。先生はよく著名な方の本を読み、その中から文章の構成を学ぶよういっておられました。私は、文章の表現は上手にはなりませんが、読んでくださる方がこれで分かるだろうかと、心ずるようになりました。これは大変な進歩だと思っております。

池上先生はいつまでも私の心の中に生きております。

西山 さき

葉瀬千風 文蓮の凍氷

梅ととめむ 流転の岸辺

新 一巻大成 信江の大記

鈴音清湖
藤声和子

合巻三昧 八十六



1996.1.1. 池上義信

西山様

NKH no. 14.
おとこ

貴館研究報告、オ5号を
おわかつくござい
せんひろに、ありがとうございます
ございまして
辱く御礼
申し上げます



昨年は大へんに
お世話になりました
深く一
感謝いたして
まいります。

本年は、禾本、莎草を
徹底的に、御遊覧なおります

Jan. 24 1969

池上義信